

木材ジャーナル 名古屋・せぶ

令和7年11月号 No.222

名古屋木材組合
名古屋港木材産業協同組合

第59回全国木材産業振興大会開催

令和7年9月4日(木)(一社)全国木材組合連合会、全国木材協同組合連合会の主催により、(一社)大阪府木材連合会が大会担当として、大阪市中央公会堂において来賓、会員等約600余名の出席を得て開催された。

大会第1部大会議事において菅野全木連会長の挨拶の後、来賓の祝辞があり、大会宣言決議(下記)が発表され、満場一致で決議された。

引き続き第2部では記念講演として、写真家の大竹英洋氏が、北米の湖水地方「ノースウッズ」～未知の森にオオカミを探して～をテーマに、自身が撮った写真を見せながらカナダでの撮影時のエピソードを交えながら講演されました。

第3部では木材産業功労者や協同組合事業功績者等に対する表彰式が行われ、本県からは下記の方々を受賞されました。



記

1. 大会受賞者(本県分)

全木連会長賞	加藤 秀司	名古屋木材組合理事(株サンコー)
"	余 吾 壮一	名古屋木材組合広報委員(株東海木材相互市場)
全木協連会長賞	峰 野 晋	鳳来製材協同組合副理事長(昭典木材株)
"	梅 谷 雅和	名古屋港木材産業協同組合理事(株水野商店)

※来年の第60回大会は10月29日に東京都で開催予定です。

恒例の『国有林作業現場等現地見学会』を開催しました

木材産業は木材の生産、流通、加工、建築利用、木質バイオマス利用など裾野の広い産業であり、木材利用の一層の促進と持続的な森林管理の観点から森林・林業の実情や取り組みについて理解を深めることが大切です。そのため名古屋木材組合では、毎年中部森林管理局名古屋事務所の協力を得て、組合員の方々を対象とした現地見学会を実施しています。

2025年9月18日(木)、天気恵まれ、午前中に訪問したのは愛知森林管理事務所の東三河地域に位置する段戸国有林です。林道の途中でマイクロバスを降り、足元の悪いアップダウンの激しい作業道を現場まで歩いて素材生産現場へ到着しました。段戸国有林は、明治中期から植林された人工林が主体の山で良質なヒノキの生産地であり、樹齢100年以上の良材は「段戸SAN」というブランド材として県内の市場等へ出材されています。

現場では、施業を請け負った株式会社岡本(滋賀県近江八幡市)の作業員が126年生のヒノキの伐倒を実演しました。その後、チェーンソーによる丁寧な造材、グラップルによる集材、フォワードによる運材という一連の作業を行いました。作業を見終わった参加者は「見ごたえのある林業地で、作業技術の高い事業体で参考になった」と感想をもらいました。

午後からは三河材流通加工センター(HOLZ三河)を見学しました。当施設は2002年にオープンした本県林業の本場である東三河地域の流通加工の拠点です。まず、流通事業部の愛知県森林組合連合会の安藤常務理事より、当時県下唯一であった自動選木機を使った木材の選別方法、立米単位での入札や単木売りなどの販売方法、木材の見分け方など実際に土場の木材を確認しながらの説明がありました。

次に、製材事業部では山崎理事長の案内で製材、乾燥、プレカット、防虫加工施設など実際に現場作業が行われているところを見学するとともに、2022年に整備したフィンガージョイント集成材の製造ラインの説明を受けました。1時間半ほどの滞在でしたが、丸太から製品ができるまでの一連の流れが十分理解できたと思います。

見学会後のアンケート結果では、「限られた人数で広大な土地を人力で伐倒・造材されていたので、時間もコストもかかっていることが実感できた」「一本の木がどのように作られて、また加工されるまでに長い時間がかかっていることに気づき、沢山の人の手で建築や生活ができていたのだと確認することができた」などの感想が出され、改めて森林・林業・木材産業の大切さに気付いた見学会になりました。



“いま、木に本気” 暮らしに活かそう木の良さを

生の声に学ぶ 木防プロジェクト 最終章

林ベニヤ産業株式会社七尾工場長 ～能登半島地震の被災体験談～

近年は豪雨災害や大規模地震など、企業を取り巻く災害リスクが高まっています。こうした中で、防災対策や職場の安全意識を一層強化することが求められています。

今回は能登半島地震で被災された林ベニヤ産業(株)七尾工場長 酒井徹氏に、災害当時の状況や復旧に向けた取り組みについてお話を伺いました。今後の防災対策や業界の支援に役立つ貴重な体験談としてご紹介します。

1. 震災発生直後の対応

- 地震直後、社員・スタッフの安否確認や避難はどのように行いましたか？

2024年1月1日16時10分に発生した地震は輪島市と志賀町で最大震度7、工場がある七尾市では震度6強を観測、大津波警報も発令されました。出社していた従業員はおらず、道路が通れるか判らないまま自分が工場に行ったのは2日夕方。4日に管理者を招集し従業員の安否確認を電話で行いました。幸い従業員170名とその家族に人的被害はありませんでした。

- 被災当日に最も困ったことは何でしたか？

当日は家族を守るのが精一杯でした。直ぐに市役所に避難しましたが、88才になる父が一人で自宅に戻ってし

まい津波の状況を気にしながら残りの家族と避難を続けました。また、高校生の娘が30km程離れた商業施設で被災。金沢の見知らぬ方に車で送って頂きました。感謝。

- 工場や倉庫、木材の安全確保について、どのような対策が有効でしたか？

震度7に有効な対策はないのでは。正月で人がいないのが不幸中の幸いでした。操業中であれば倒壊した製品や仕掛品のそばに人がいたかと思うとゾッとします。建屋が倒壊しなかった事も運です。50年以上経過している建屋もあり揺れの方向が違っていたら倒壊していたかもしれません。

2. 被害状況と復旧の課題

- 被災による被害(建物、在庫、設備、インフラ等)で特に深刻だったのは何ですか？

構内の地面は最大30cmの裂け目や多数の不陸が発生。機械設備のレベル調整が大変でした。例えばロータリーレースは40tもあるのにクレーン車は入れず、小さなジャッキで少し持ち上げて薄い鉄板を差し入れました。自宅が被災しているのに出て来てくれた従業員には感謝しかありません。最も困ったのは生活用水です。飲料水は支援が迅速でしたが水道復旧が遅くトイレや洗濯、風呂に苦労しました。復旧作業で疲れた従業員が風呂にも入れず、週に1回、洗濯物をもって富山や金沢の銭湯に通うことが続きました。

- 木材の在庫はどのような被害を受けましたか？乾燥材や原木等に差はありましたか？

製品在庫は1山1.2m、4段積みで殆どが崩れたり倒れかかっていたりしていました。合板の片付け・選別は復旧の最優先事項でしたが、余震がある中で安全第一とし、必ず複数人で緊急地震速報に注意しながら行い大変でした。原木については野積みは崩れていませんでした。

- 復旧までに時間がかかった原因・課題は何でしたか？

近隣の事業所の中では特別早く再開出来ました。停電なし。上水は止まりましたが工業用水が使えたことにより早期に再開しました。

3. 業務の継続と対応

- 地震後、どのくらいの期間で業務を再開できましたか？

在庫品の出荷は1月5日から開始。1月10日より機械の試運転。15日からは通常の操業にほぼ近い生産を再開しました。

- BCP(事業継続計画)のような事前対策をしていた場合、効果はありましたか？

弊社舞鶴工場との相互応援体制を取っていたため納入遅延は最小限に抑えられました。

- 協力企業・組合・自治体との連携で助けられたことはありますか？

被災直後、直ぐに機械メーカー、設備業者、運送業者が対応してくれたことが早期再開に大きく寄与。関係各所からの支援物資(飲料水、レトルト食品、ブルーシート等)も次々と届き、工場での昼食及び従業員の生活用としての配布に使わせて頂きました。自治体からは復旧補助金の案内があり、土間や機械の修復に利用しました。

4. 支援・制度について

- 国・県・市町村などからの支援制度(補助金・融資・被災証明など)は利用できましたか？

林野庁や中小企業庁の補助金を利用。

- 支援制度で「もっとこうだったら助かった」と思う点がありますか？

従業員に公的支援が届くには所要時間がかかるので、会社として見舞金を支給。趣旨は家屋損壊ではなく日常生活の不便に対するものとし、避難生活日数や扶養家族の人数により支給額を定めました。最高額は20万円にな

りました。行政からは工場復旧に必要な項目、金額の問合せがありましたが、時間が無く十分に内容を詰めることが出来ませんでした。追加支援や内容の修正が柔軟に対応できれば更に良い支援となったのでは。またコンクリート殻や廃棄木材を市が回収してくれないので困りました。

- 木材業界団体や協同組合からの支援が役立った事例はありましたか？

全国から集まった義援金を分配して頂きました。

5. 今後に向けた備え

- 今後、震災に備えて優先的に強化すべきだと思うことは何ですか？(例:建物耐震化、在庫管理、従業員訓練など)

自分では日常の3S活動や安全巡視で手を抜かないことだと戒めています。津波に対しては工場建屋の屋根に上がる経路を整備しました。

- 組合や地域での共助(防災協定や共同備蓄など)について、どう思いますか？

生活物資の不足は地区により、また、時間の経過で種類が異なります。全国から届く救援物資を早く、無駄なく分配する仕組みが必要です。

6. 自由記述

- 今回の震災を通じて、木材業ならではの課題や気づきがあれば自由にご記入ください。

元々、石川は災害が少ないので油断していましたが、どこで災害が発生してもおかしくないと痛感させられま

した。能登復興は道半ばであり人口流出も懸念されています。当社では国産材をトレーラー50台(毎日)消費します。今後も地域経済の核としての役割りを果たしていきたいと考えています。

◆ 合縁木縁 ◆

◆ 自遊で異見番 ◆

「ベランダで果物育ててみたら、
けっこう楽しかった話」

「果物の木って、庭がないと無理でしょ？」って思ってたんですが、プランターでも意外と育つんです。しかもちゃんと実がなる！最初はちょっとした興味だったんですが、今ではプランターを見るのが毎日の楽しみになってます。

私が最初に育てたのはブルーベリー。見た目もかわいしいし、鉢でも育てやすいって聞いて始めました。春に白い小さな花が咲いて、夏にはちゃんと実がなりました！自分で育てた実をつまんで食べるの、ちょっと感動します。

他にもミカン、レモンとかイチジク、モモなんかもプランターで育てられます。レモンの木は葉っぱがツヤツヤしてて見た目もいいし、冬でも葉が落ちないから緑が欲しい人におすすめ。

育てるのが大変そうに見えるかもしれませんが、プランターだと意外と管理しやすいんです。虫がついてないかもすぐチェックできますし、鉢ごと動かせるから、日当たりの良い場所に置き直したり、寒くなったら室内に入れたりもOK。

ただ、夏は水切れ注意。暑い日は朝晩水をあげることにします。あとは、肥料をちょっとずつあげるのも大事。やりすぎはNGなので、様子を見ながら少しずつで大丈夫でした。

果物って、すぐに実がなるわけじゃないけど、その分楽しみが長く続くのがいいところ。芽が出て、花が咲いて、実がふくらんでいくのを見てると、「あー育ててよかったなあ」って思います。

スペースが狭くても、ちょっとしたプランターひとつで始められる果樹栽培。興味がありましたら、ブルーベリーあたりから試してみてもはどうでしょうか？きっと毎日のちょっとした楽しみになるはずです。

今回は、中央木材市売株式会社 友松 功氏をお願いします。

「移り行く趣味」

名古屋木材組合広報委員の牧野です。私は毎回その時の趣味について投稿させていただいてきました。営業の時はゴルフでしたが腰痛がひどくなりウォーキングに、ウォーキングのやりすぎで膝を痛めそれからは魚釣りに、最近はお城巡りで「現存12天守」に登る旅行へ妻と二人で行ったり、妻の両親と一緒にいたりしています。

現存12天守とは日本のお城の天守の内、江戸時代またはそれ以前に建設され現在まで保存されている天守のことです。今までに訪れたのは、姫路城、松本城、丸岡城、丸亀城、伊予松山城の5つで、残りの7つは弘前城、犬山城、彦根城、松江城、備中松山城、宇和島城、高知城になります。

どのお城も構造材は「木」になります。ものすごく太い柱や梁に触れたり、展示してある甲冑や刀などを見たり、急な階段を登りきり最上階の天守から城下町を見下ろすとタイムスリップしたような不思議な感覚になり、当時の城主はどのようにしてこの地を治めていたかと思いに浸ります。

ただ、そんな時間はほんの一瞬で、どこのお城に行っても外国人観光客が多くすぐに現実に引き戻されてしまいます。

お城を登った後は温泉旅館に泊まります。露天風呂で疲れを癒し、その地の郷土料理に舌鼓を打ち、地酒に陶酔することで旅の醍醐味を味わっています。

残りの犬山城と彦根城と備中松山城以外は、時間的にも体力的にも飛行機を利用しないと行けないと思いますので、余裕を持った旅行計画と、お城に登れる体力と、おいしい料理やお酒が楽しめる健康を維持し、何年掛かるか分かりませんが「現存12天守」を制覇したいと思っています。

ちなみに魚釣りは今も時々行っていて「キス、ハゼ、アジ、イワシ、ヒラメ、マゴチ、青物」を常滑、木曾川、豊浜、田原サーフなどの丘っぱりから、季節に合わせた「肴」を狙っています。

これからも「続ける趣味」と「新しい趣味」を見つけ、「移り行く趣味」を楽しんでいきたいと思えます。

お知らせ 西部地区一斉清掃について

例年、実施している一斉清掃について、今年度は下記の日程で各事業所の周辺を清掃していただき、回収されたゴミを下記の指定回収場所5カ所のいずれかへお持ちいただく形で実施いたします。お手順をおかけいたしますが、臨海地区の環境美化にご協力くださいますよう、お願いいたします。なお、土砂回収につきましては、例年どおり土のう袋に入れて各事業所前に集積していただければ名古屋港管理組合にて回収していただけますので、名古屋港埠頭株式会社からのお知らせのとおりご対応ください。

記

1. 地域一斉清掃開催日 令和7年11月20日(木) 10時～(30分程度)
2. 開催場所 各事業所周辺
3. ゴミ回収場所
 - (1) 楠広場 駐車場
 - (2) 名古屋港木材産業協同組合：倉庫前
 - (3) 東浜中央緑地 駐車場
 - (4) 弥富市楠二丁目18竜製作所第2工場横の防災道路
 - (5) 飛鳥村公民館分館 駐車場
4. お問い合わせ 名古屋港木材産業協同組合 0567-57-2017 (佐治・柿内)
名古屋港埠頭株式会社港湾管理課 052-398-0511 (中尾・梅村)

※ごみ袋は、自治体指定のゴミ袋以外で透明なものであれば特に指定はございません。
なお、土のう袋の配布の際にゴミ袋も準備していただけます
土のう袋の配布は11月7日(金)13:30～15:30 飛鳥村公民館分館にて予定されています。
※回収いただきましたゴミは、当日の11:30までに指定の回収場所にお持ちください。

☆☆☆ 西部臨海安全ニュース ☆☆☆

愛知県内の被害額、100億円超！

SNSを悪用した投資詐欺・ロマンス詐欺の本年被害額が100億円を超えました。犯人は、SNSのダイレクトメッセージなどで接触し、「必ず儲かる」など言葉巧みに信用させ、「投資」や「暗号資産」の購入、手数料等の名目で、インターネットバンキングなどの手段で金銭等を振り込ませます。

【不用意にダイレクトメール返信しない】【SNSだけのやり取りしている相手信じない】
【振込先が頻繁に変わる場合は詐欺】 手口を知って、騙されないように注意しましょう！

蟹江警察署 生活安全課 生活安全係 TEL.0567-95-0110

◆ 広告コーナー

Technology for Clean Air & Bulk Handling

INOUE

集塵装置の省電力・安全
木質バイオマスの利活用

ご提案します!!

快適な環境づくりに取り組む
井上電設株式会社 〒460-0022 名古屋市中区金山4丁目3-17
052-322-5271 https://www.inoue-d.co.jp

リノック

家族の心まで温めたいから、
リビングバスルーム

快適空間としての機能や
使い勝手は当然揃えながら、
「いいね」や「サプライズ」が詰まった
心まで満たせるバスルームが誕生

Instagram QRコード

発行 名古屋木材組合
発行者 西垣洋一
〒460-0017 名古屋市中区松原2-18-10
TEL <052> 331-9386
FAX <052> 322-3376
【編集】名古屋木材組合広報委員会

発行 名古屋港木材産業協同組合
発行者 服部伸一
〒490-1444 海部郡飛鳥村木場1-74
TEL <0567> 57-2017
FAX <0567> 57-2018
【編集】名古屋港木材産業協同組合広報委員会